



# 安倍内閣の暴走くい止める新知事を!

## 仁比参議院議員が2/11ふじい直子県知事候補を応援

「安倍総理の足下の県」から暮らし一番の県政へ

2月11日、宇部フジグラン前で仁比参議院議員がふじい直子県知事候補の応援演説に来宇。「自民党の暴走政治を止める結果を!」と訴えました。

### 「国言いなりの官僚県政」

▼上関町議選の告示第一声から、宇部に駆けつけた仁比参議院議員は、演説の冒頭で「前知事が『安倍総理の足下の県』という、国言いなりの官僚県政から、県民共同の県政に代えよう。」と訴えました。

に帰られない人が未だにたくさんいる中で、再稼働と原発輸出を狙う原発に依存する政治から、再生エネルギーに大きく切り替えて行かなくてはいけない。上関原発新設をやめさせよう」と訴えました。

### 「秘密保護法」に反対討論

▼また、年末の国会で「秘密保護法」の最終局面で、他の



野党が次々に退場していく中で、共産党が踏みとどまり堂々と反対討論を繰り広げ、文字通りの「自共対決」であったことを報告。



### 沖縄の負担軽減 減にならない空 中空輸機部隊 の岩国移転

▼岩国基地の問題については「沖縄の負担軽減と言っては中空輸機部隊を岩国基地に移駐させたが、訓練は沖和で実施することに変わりなく、負担軽減にはならない。」と政府と県による県民だましを暴露。

### 「アベノミクス」 は大企業応援

▼次に経済問題に触れ、「アベノミクスは大企業を潤おわせたが、中小企業の営業を壊していった。原油の値上げで公共料金の値上げは庶民を苦しめている。賃上げも一部に限られ、消費税引き上げで家計を壊していくだけだ。」と自民党の経済政策を批判。

### 社会保障改悪 で弱い者いじめ

▼更に安倍内閣の社会保障改悪について「高齢者の年金を減らし、国保と介護保険料の引き上げ、介護保険から軽度外し、高齢者から介護を取り上げている。」とズバリ。

### 悪性キツパリや めさせよう

▼仁比さんは最後に、「大企業を応援する不公平な政治を県民の力でキツパリとやめさせる結果を出そう!」と呼びかけ、演説を締めくくりました。

# 「親子方式は困難だ。」江沢教育長 多くの保護者の願い踏みにじる姿勢あらわ

市議会の総務文教常任委員会は4日、学校給食問題について審議をおこないました。冒頭、江沢教育長は「親子方式は建築基準法の制約から困難である。」と多くの保護者の願いを踏みにじる発言をしました。

## 保護者は「親子方式」を要望

▼12月議会に、四千名を超える署名とともに「学校給食は親子方式」での建設を求める請願が提出され、付託された総務文教常任委員会は継続審議にし、休会中の審議をおこなっています。

12月議会では請願者を参考人に委員会で意見を聴



取。委員会では「更なる慎重審議が必要」と継続審議となっていたものです。

## 「建築基準法から困難」

▼4日の審議の冒頭で、教育長が発言を求め「建築基準法上、親子方式での建設は困難」とする発言を行いました。その発言からは「困難」を理由としていて、「市民の願いを実現するために乗り越えようという」意欲はありません。

## 火葬場と同じ安易な結論

▼この手法は先の火葬場の建設場所をめぐる「小野田

斎場の建て替えは困難」とした手法と同じで、多くの市民が願っている、何が何でも困難を乗り越えようという姿勢が全く感じられない安直な手法を選択しているのです。

## 「山陽地区だけでも・・・」

▼保護者の中には「給食施設の安全は特に山陽地区の学校で問題となっている。」山陽地区だけでも親子方式での給食施設の改修をすれば予算も少なくて済む。一度にやらなくても良いのではないか。」とする意見があります。しかし、市教委は「給食施設の安全を一度に解決することが公平であり、その為には大規模なセンター方式で解決できる。」と、センター方式に固執しています。



◆右が山陽地区の給食室、調理室と廊下側を仕切るガラス戸がありません。左は小野田側の給食室。廊下側との仕切るガラス戸が設置されています。



## 朝の風

◆3・8上関原発を建てさせない県民集会を成功させるために、各地に地域実行委員会が結成されている。

山陽小野田市でも結成され、文字通り「一点共闘」で取り組みが進められている。◆これまでスローガンでは「一致点での共闘」が叫ばれてきたことがあるが、今回は我々としても初めて、今まで交流のなかった人たちと一緒に県民集会にどうやって500人の市民を集団に参加してもらうか、議論し具体的に取組みが進められているのだ。◆この中では、決めた約束は必ず守り、積極的に発言し行動することが求められている。人として当然のことが、これまではとすればおざなりにされていたことでも着実に実行が必要とされているのだ。◆約束を忠実に実行してこそ信頼を勝ち取ることができる。心し